

# ブラジル中銀は2会合連続で政策金利を据え置き

- ブラジル中銀は2会合連続で政策金利を据え置き。輸送業界のストやレアル安を受けて、政策の様子見姿勢を示す。
- 一時的な物価上昇圧力から、ブラジル中銀は18年末の物価見通しを引き上げ。今後、5～6月の経済指標を注視へ。
- ブラジル中銀は「最近の市場の動揺と金融政策の間に機械的関係はない」と述べ、通貨防衛のための利上げを否定。
- レアル相場は中銀の為替介入強化を受けて安定しつつある。今後、レアル相場が自律的な安定を取り戻すかが焦点に。

## ブラジル中銀は2会合連続で政策金利を据え置き

ブラジル中央銀行は6月19-20日の金融政策委員会(COPOM)において、2会合連続で政策金利を6.50%に据え置く決定を下しました(図1)。

ブラジルで5月に発生したトラック運転手による大規模ストライキや、新興国通貨の全面安を受けたレアル相場下落加速など、国内外の経済環境が不透明となる中、ブラジル中銀は政策の様子見姿勢を示しました。

## ブラジル中銀は18年末の物価見通しを上方修正

輸送業界でのストライキやレアル相場下落などの影響から、ブラジル中銀は「短期的にインフレへの大幅で一時的な上昇圧力がかかる」との見方を示しました。今回示されたブラジル中銀のインフレ見通しでは、2018年末のインフレ率予想は前年比+4.2%へ大きく上方修正されました(5月のCOPOM時点の予想は前年比+3.6%、図1)。

もともと、2019年末のインフレ見通しに関しては、5月時点の前年比+3.9%から前年比+3.7%へ小幅下方修正されているほか、2018～2019年のインフレ見通しは依然としてインフレ目標レンジ内で推移するとみられています。

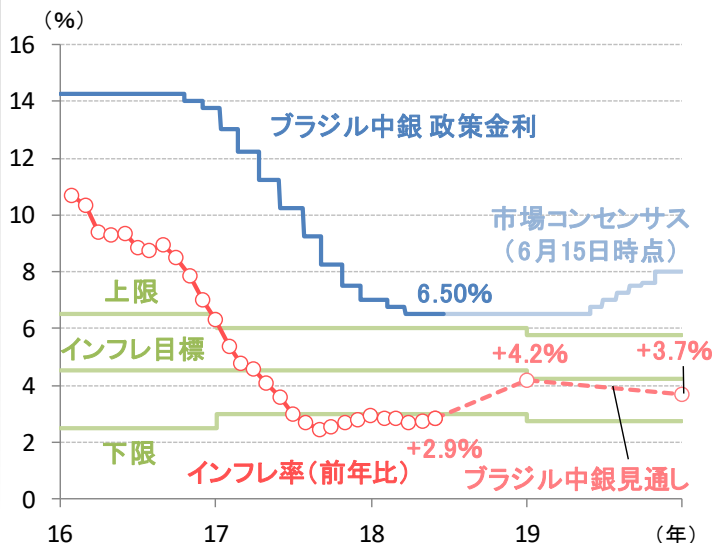
ブラジル中銀は今後の金融政策に関しても経済動向次第と述べ、ストライキの影響が出てくるとみられる5月～6月の各種経済指標などを注視する姿勢を示しています。

## レアル相場が自律的な安定を取り戻すかが焦点

また、ブラジル中銀は「最近の市場の動揺(レアル安)と金融政策の間に機械的な関係はない」と述べ、改めて通貨防衛のために利上げを行う可能性を否定しました。

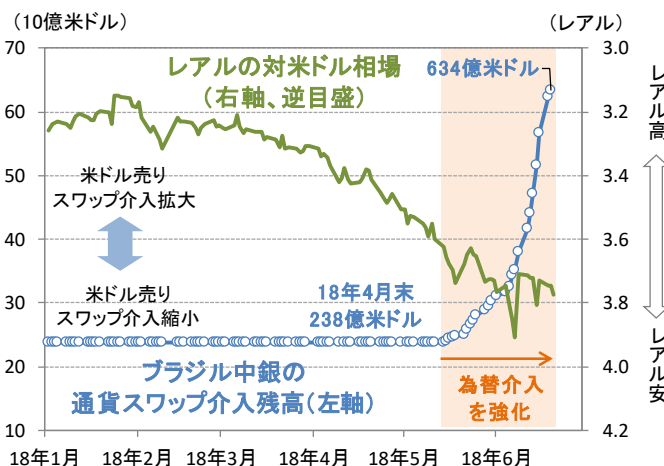
5月中旬以降、下落が加速したレアル相場は、足元ではブラジル中銀の通貨スワップ介入の強化により安定しつつあります(図2)。今後は、ブラジル中銀が徐々に為替介入の手を緩め、レアル相場が自律的な安定を取り戻すかが市場の焦点となりそうです。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)  
 (期間)政策金利:2016年1月1日～2018年6月20日  
 拡大消費者物価指数(IPCA):2016年1月～2018年5月  
 (注)ブラジル中銀のインフレ見通し(市場シナリオ)は、政策金利と為替レートの前項前提に市場コンセンサスを使用したもの。

図2:ブラジル・レアル相場と通貨スワップ介入残高



(出所)ブルームバーグ、ブラジル中銀  
 (期間)2018年1月2日～6月20日(通貨スワップ残高は19日まで)